

2016年7月22日(金)

震災・復興とリスクマネジメント(○) 国際都市神戸と世界の文化( ) 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ( ) グローバルサイエンスと拠点都市神戸( ) その他( )  
 仙台交流プログラムの一環として、神戸市立渦が森小学校にて、5年生を対象に防災教育を実施しました。

〔概要〕2015年12月に仙台を訪問した際に、東北大学リーディング大学院にて、「減災アクションカードゲーム」(東北大学リーディング大学院開発)を体験しました。その有効性を地元神戸でも広め、地域貢献をしたいと考えました。最も近くの渦が森小学校の5年生全員に対して、本校生徒がリーダーとなって実施しました。



授業開始前の最後の打ち合わせです



ゲームの前に本校の活動について紹介しました。



ゲームは4人グループで実施します



どの班も積極的に取り組めていました



全員がゲームに頑張って取り組めたため、減災リーダー学級として認定証を授与しました。



最後にアンケートを実施し、卒業研究にも活かします。

(生徒の感想)

僕は今回の渦が森小学校での減災アクションカードゲームの実施のリーダーとなり、話を進めてきました。しかし、至らない点が多く不甲斐なく感じていました。その中でもメンバーに助けをもらいながらなんとか今日の授業を無事に終えることが出来ました。今日まで、授業をうまく進められるか、自分がゲームマスターの役割を果たせるか、何か失敗はしないかと様々な不安がありました。ところが、実際に授業を行ってみると渦が森小学校の先生、生徒は温かく迎えてくれ、授業後には生徒から「先生～」と声をかけられたことがとても嬉しかったです。授業内容はまだまだこれからも改良していく点が多いと感じました、アクションカードゲームの課題点も見つかりました。今回の渦が森小学校での経験をこれからの減災アクションカードゲームチームの活動に反映していきたいと思えます。

小学生が相手ということで、初めは戸惑ってしまい上手く進行することが出来ませんでした。サポートの先輩方にも助けをいただき、回数を重ねていく事に上手く進行することが出来るようになったと思います。渦が森小学校だけでなく、住吉小学校など近くの学校の小学生にもアクションカードゲームを通して、減災について一緒に考える機会があれば良いなと思いました。

今日は初めて減災アクションカードゲームを小学校で実践してみましたが、防災サブリーダーとしてゲームを進行することの難しさ、授業としてやることの大変さを身にしみて感じました。小学生がどれくらいの内容を理解できるか、どう言えばわかりやすいかなど今回の活動で分かったことはたくさんあるので、防災アクションを広めていく第一歩になったのではないかと思います。次は神戸版を作り、神戸だからこそ気をつけるべき内容も小学生に教えられたらと思います。

減災について説明することにより、子ども達に分かりやすく伝えたいという意識から、より細かく砕いて発信することが出来ました。その為、私自身にも減災と言うワードが強くインプットされ、とても価値のある1日となりました。子ども達の素直でユニークな意見を聞き、様々な角度から「減災・震災」について知ると共に、生徒らの震災に対する意識の高さを感じとれました。今後、減災を各地へ広められるよう努めたいと思います。

私は以前から『防災や減災のことを校外・地域住民に広めたい』と思っていました。しかしなかなか動くことができず、大きく行動をすることができませんでした。今回の渦が森小での授業では私達の練習・経験・打ち合わせ不足が目立っていたと思います。しかし回数を重ねるにつれメンバーが慣れてきたのか、四時間目にはスムーズに進行ができていました。小学生も楽しみながらゲームを行っていたので、渦が森小に限らず、他の小学校にもこの活動を行えば良いな、と思います。

「地域交流」や「伝えていく」ということが今日の渦が森小学校での活動でできたと思います。準備も不十分だった点があったと思いますが、今現在での自分の知識や資料を最大限に生かすことができたと感じているので、少しでも生徒の皆さんそれが伝わっていれば良いと思います。また、メンバーも小学生から学ぶことが多く、教えなければいけないのだけれど伝え方を考えなければちゃんと届かないと思いました。

防災・減災のことについて、一緒に年下の小学生と考える機会は今までなくて、貴重な体験となりました。小学生の集中力が効く範囲で、どのようにすれば興味を持ってもらえるか、高校生と小学生という距離をどう詰めていくか考えながら、実際サブマスターやゲームマスターを体験してみてもはじめて、「人に伝える」その難しさを噛み締めました。中には、日本語が十分に分からないという子や、班員皆人見知りで会話が弾まないというケースに出会いました。一生懸命に訴えかけますが、果たして本当に小学生の心の中に入り込んでいるのか不安になりました。でも、聞いてみると「津波が車より速くて、泳げないとは思わなかった。」と言っていて、危険意識を持つように変えられたのは、いつ起こるか分からないもしものために重要な役割を果たせたのではないかと実感しています。今後もこういった活動を続け、小学生の心の中にスッと入っていけるように、もっと上手に訴えられるようになりたいと思います。

今日の体験を通して感じたことは、まず小学生が自分たちの想像以上に防災・減災の意識が高かったことです。サブマスターの僕たちがいなくても自分たちで話し合いが成立するほどで正直驚きました。各クラス担当した班の子たちに感想を聞くと、「考えるのはすごく難しいけど、楽しい。普通に先生の話の聞いたり、DVD を見たりするよりアクションカードゲームの方が断然いい！」とみんな言っていました。今日の経験はこれから、減災意識を高めていくための第一歩になったと思います。

今回、はじめて外部で私たちが昨年度の仙台交流活動などを通して学んだことを、発信できる機会を持つことができ、とてもうれしく思います。授業の内容等に関しても、多少の不備はあったにせよ、全体を通してみれば、良いものになったのではないかと思います。しかし、実際に授業を行う中で、今後「減災アクションカードゲーム」を行っていくうえで改善のしなければならいことも見つかりました。